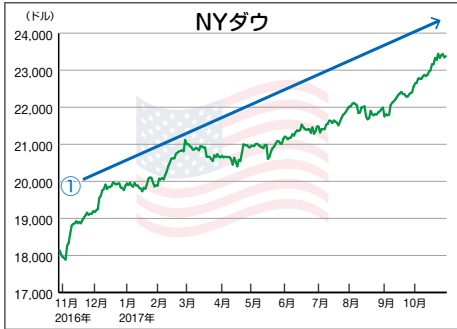
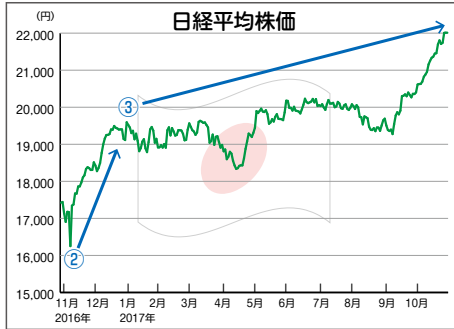


# マーケット情報

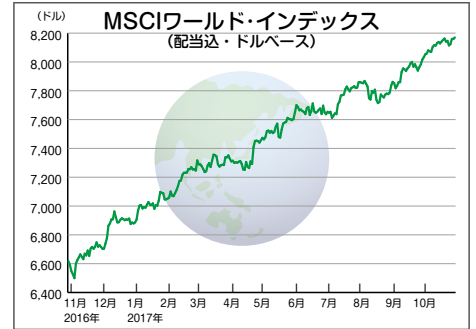
対象期間：2016年10月末～2017年10月末



データ出所：S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス、Bloomberg



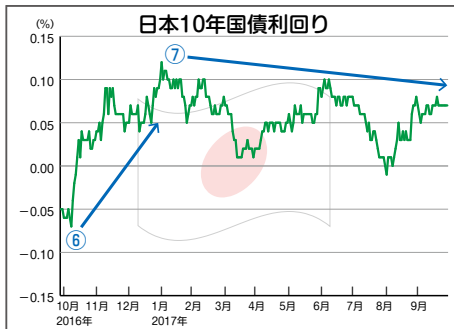
データ出所：©日本経済新聞社、Bloomberg



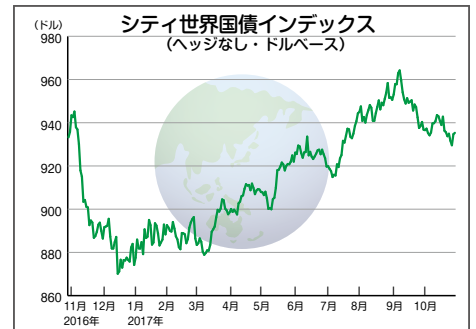
データ出所：MSCI Inc.、Bloomberg  
※MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を含む世界の先進国で構成されています。同指数に対する一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。



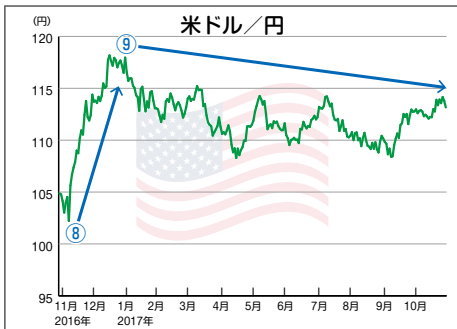
データ出所：Bloomberg



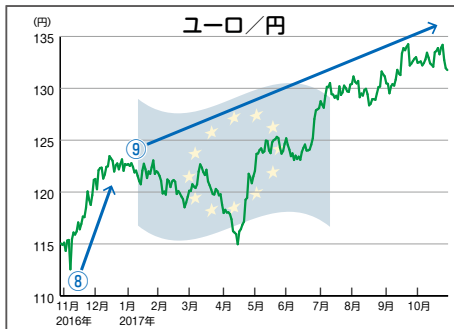
データ出所：Bloomberg



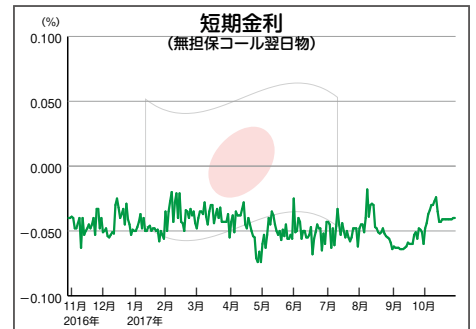
データ出所：シティグループ・グローバル・マーケット・インク、Bloomberg  
※シティ世界国債インデックスはシティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。



データ出所：三菱東京UFJ銀行、Bloomberg



データ出所：三菱東京UFJ銀行、Bloomberg



データ出所：Bloomberg

※ MSCI ワールド・インデックスとシティ世界国債インデックスは、ドルベースでの表記です。世界株式型、世界コア株式型、世界債券型のベンチマークおよび指数は円換算したものであり、為替レートの影響を受けるため、上記のチャートと連動しないことがあります。円ベースのベンチマークおよび指数につきましては、1年間の特別勘定の設定率指数推移をご確認ください。

## マーケットに影響を与えた出来事

外国株式市場	日本株式市場
<p>(米国)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年11月の米大統領選において共和党のトランプ氏が勝利すると、経済政策への期待感から米株価は上昇する展開となった。その後も、良好な雇用環境や堅調な米国経済を背景に、NYダウは最高値を更新。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日銀のETF購入による株価下支えの効果や円高が一服したことが好感され、日経平均株価は上昇。さらに、米大統領選でトランプ氏が勝利し、円安基調になると、日経平均株価は上げ幅を拡大した。(②)</li> <li>・トランプ政権の政策実行性への不安や地政学リスク懸念から株価は一時的に下落する場面もあったが、米国株の堅調な推移や良好な国内企業業績見通しを背景に株価は上昇基調となった。(③)</li> </ul>
外国債券市場	日本債券市場
<p>(米国)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用や消費の良好な環境から米国の利上げが意識され、金利は上昇へ。また、トランプ政権下での大規模なインフラ投資政策やインフレ期待の高まりに加え、12月のFRBによる利上げ決定を受け、金利は一段と上昇。(④)</li> <li>・トランプ政権の政策の実効性に懐疑的な見方や、地政学リスクの高まり、また米国の物価上昇が緩慢となったことから、金利の上昇は抑えられる形へ。(⑤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年7月末の日銀決定会合において、マイナス金利政策の深堀りが見送られると、その後金利は上昇基調となった。また、米国金利上昇や日本株高を背景に日本国債が売られ、10年国債利回りはマイナス圏を脱するまでに上昇した。(⑥)</li> <li>・日米株高を背景に金利が上昇する場面もあったが、物価の伸びの弱さから日銀の金融緩和政策の長期化見通しや地政学リスクが高まったことで、リスク回避姿勢が強まり、日本国債は買われ、金利は低下基調へ。一時、10年国債利回りはマイナス圏まで低下した。(⑦)</li> </ul>
外国為替市場	外国為替市場
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英国のEU離脱決定により、英国を中心とした経済の低迷が懸念され、リスク回避姿勢の強まりから円が買われた。その後、米国金利上昇を背景に日米金利差拡大が意識され、円売りが優勢となり、ドル高基調に転じた。(⑧)</li> <li>・トランプ米大統領の通商・移民政策に関する強硬路線やドル高牽制発言により、ドル高が抑えられ、地政学リスクも高まったことから、米長期金利が低迷し、円高ドル安基調へ。ユーロ/円は、地政学リスク懸念から円高基調が強まるも、仏大統領選挙で中道派候補が当選したことを起点にユーロ高に転じた。その後もユーロ圏の景気回復や量的緩和の縮小期待からユーロ高が一段と進んだ。(⑨)</li> </ul>	